

—— これからもドイツと内子町の心の架け橋 ——

さようなら、ありがとう、ドレーンさん



内子町の国際交流員(以下、CIR)のドレーン・アルントさんが結婚され、3月25日にドイツに帰国しました。

3月18日は最後の学校訪問の日。この日、石畳小学校ではドレーンさんへの感謝の気持ちを伝え、新たな門出をお祝いする「ドレーン先生ありがとう」集会が行われました。石畳小学校の児童は保育園の頃から教えてきた子たち——。心がこもった歌や出し物に何度も涙するドレーンさんの姿から、たくさんの愛情を注いでいたことが伝わります。

石畳小学校だけでなく、町内の学校や団体でいろいろな思い出を作ってくれたドレーンさん。姉妹都市のドイツ・ローテンブルク市との交流では、青少年海外派遣事業の引率や通訳として同行し、両市町をつなぐ架け橋としても活躍しました。

今月号は、そんなドレーンさんの特集です。多彩な才能で内子町に貢献してくれたドレーンさんの13年間を振り返ります。いつ遊びに帰ってきても「お帰り!」と町民みんなで言えるように——

大好き♡ドレーンさん！

いつも明るく元気で、「内子町が大好き」と公言していたドレーンさん。その人柄で仕事でもプライベートでも、仲間の輪を大きく広げていました。一緒に活動した皆さんに話を聞くと、たくさんの思い出とドレーンさんへの愛があふれ出ます――。

娘の旅立ちを温かく見送りたい

ドレーンは娘と同じ年。18歳から北海道へ行った娘の姿とどこか重なりました。娘はきっといろんな人に助けてもらっているので、私たちも同じように、何かドレーンの助けになればなと思っていました。ドイツ語講座も受けていたので、それがきっかけでドレーンをはじめ、多くの人との交流の輪が広がりました。ドレーンとは年末年始と一緒に過ごしたり、娘のいる北海道へ一緒に旅行したりしました。お父さん、お母さんと慕ってくれて、楽しい思い出がたくさんできました。ありがとう。今は社会に出る娘を見送る親のような気持ちです。頑張ってね。体に気を付けてね。あまり言うと寂しくなってしまうけれど、これからの人生が輝くように、元気で幸せであってほしいです。

「内子のお父さん、お母さん」 石田一重さん、由美子さん

お幸せに！
Viel Glück!

ありがとう！
Danke

伊予万歳を盛り上げてくれて感謝

平成17年にローテンブルク市で開かれた「内子フェア」で、村前大根一座の伊予万歳が披露されました。村前地区以外の人やドレーンちゃんがメンバーに加わった公演は大成功。日本に戻ってからも一緒にやることになり、それが今も続いています。ドレーンちゃんは誰とでも仲良くできる人柄で、場を和ませてくれます。村前地区のメンバーだけでは続かなかったかもしれないので、本当に感謝しています。もし伊予万歳のドイツ支部の旗揚げができれば、必ずドイツに行くので一緒に踊りましょう。

「伊予万歳」 山本州一さん

多くのことを学んだ憧れの人

姉の影響で太鼓を始めて、ドレーンちゃんと出会いました。「妹ちゃん」と呼んで大切にしてくれています。ここ数年は機会がなかったけれど、送別会で一緒に叩けて良かったです。ドレーンちゃんは練習熱心で、演奏が終わった後の喜び方がめっちゃかわいかった。全然疲れた顔をしないし、いつも仲間を盛り上げてくれました。その姿に多くのことを学びました。これからも何でも全力のドレーンちゃんいてください。あと、見事になまっている内子弁を忘れないでね。一緒にいれてすごかったです。

「籬太鼓」 篠浦智恵さん

楽しかったです！
Ich habe viel Spaß gehabt.



1_ ドレーンさんの大好きな石田家の皆さん 2_ ドイツ語講座の様子 3_ 青少年海外派遣だけでなく、先生たちの海外研修にも同行 4_ 籬太鼓では各地で演奏を披露 5_ エコバック運動などをした「エコ好き」の活動 6_ 「一緒にいるのが当たり前だった」という名本さん。毎年のように誕生日会を開いていた 7_ 村前大根一座の皆さん 8_ 子どもにも全力を出す、負けず嫌いのドレーンさん 9_ 国際交流協会のプランナー会の皆さん。内子町は平成29年に自治体国際交流表彰で総務大臣賞を受賞した 10_ 大風合戦など、さまざまな内子の文化を体験

新しい人生の幸せを願ってます

ドレーンはずっと内子にいたいと言っていたので、帰郷は悩んだ末の決断だったと思います。でも、その決断ができるほど、いい人に出会えたということなので、変わらず彼女の幸せを願いたいです。彼女は仕事も遊びも、何でも一生懸命。今までは内子とローテンブルクとの交流に情熱を注いで、ずっと頑張ってくれていました。これから自分のために情熱を注げることを見つけて、自分のために楽しんでほしいです。新しい舞台でも、心は内子町のみんなとつながっているから、きっとまたすぐに会えるよね。

「国際交流協会」 名本裕子さん

世界の環境問題と一緒に取り組もう

ドイツは環境先進国なので、ドレーンも積極的に「エコ好き」の活動に参加してくれました。アースデイやマイバック運動などを一緒にしましたが、思いもつかないような楽しい発想で盛り上げてくれました。真面目に考えるけれど、する側も楽しもうというスタイルは、とても勉強になります。彼女が入る事業は総じて楽し気。見せ方も上手なので、多くの参加者が喜んでいました。私自身も環境活動が楽しみに――。地球は一つだから、エコ好きのドイツ支部として、これからも一緒に活動を続けましょう。

「ECO-ZUKI UCHIKO」 多比良雅美さん

これからもよろしくね！
Lass uns gemeinsam weitermachen!

ドイツ語の勉強を続けます
Ich lerne weiter Deutsch.

ドイツ語での本音トークが夢

10年以上もドイツ語講座を受けています。全然上達しないので、ドレーンにとっては一番出来の悪い生徒だったと思いますが、仲良くしてくれてありがとう。講座ではドイツの文化やドレーンの旅行の話などもあり、語学というよりはお茶会のような感じで楽しかったです。彼女のすごさは7カ国語も話せるということ。やはり母国語で話すときに、自分らしいということも教えてくれました。本当のドレーンを感じたいので、これからもドイツ語を学び続けたいです。いつか本音トークをできる日を楽しみに頑張ります。

「ドイツ語講座」 小野尚久さん

心をつなぐ通訳に感動

プランナー会では青少年海外派遣事業の企画などをしています。ドレーンはドイツとの調整役になり、引率や通訳としても大活躍でした。私が特に感動したのは、通訳の事前準備。彼女のノートには、日本文化をどう伝えるかがびっしりと書かれています。言葉だけでなく、心も伝えたい――。人と人とのつながりを大切にする思いが見て取れます。そんな彼女だから多くの人に愛されているんだなと思いました。内子はいつでも笑顔で「ただいま」と言えるから、ドイツでも安心して幸せに暮らしてほしいです。

「プランナー会」 横田光敏さん

全てうまくいきますように
Alles Gute!



1_フェアウェルパーティの参加者全員で記念撮影 2_「内子町絆大使」に任命 3_前町長の稲本隆壽さんが感謝の言葉を述べた 4_青年海外派遣生のOB・OGからも、たくさんのメッセージが届いた 5,6_閉会後にはドレーンさんとの別れを惜しむ人であふれた

Nachricht von Frau Doreen —ドレーンさんからのメッセージ—

世界のどこかで再会できることを楽しみにしています

内子町とは恋に落ちるような運命的な出会いで、ここで暮らせて本当に良かったです。1回もホームシックにならないほど、ずっと幸せでした。ドイツに帰ったら逆に内子町が恋しくなるといいます。皆さんと過ごした楽しい日々はずっと忘れません。

ドイツでは夫と初めての二人暮らしが始まります。少し心配だけど、いい奥さんになりたいです。そのためには彼に負けてもらうようにお願いします(笑)。それから、私はずっと両親と離れて暮らしていたので、どのくらい時間が残っているかわからないけれど、1日1日を大切に過ごしたいです。今はドイツで就職活動もしていて、通訳のような日本語が使える仕事を探しています。内子町ではローテンブルク市との言葉の架け橋のような仕事をさせてもらいました。次々と言葉を選んで、どう伝えるかを一

瞬で考えるのは楽しかったし、とてもやりがいがありました。この経験を自分の仕事に役立てられたらいいと思っています。

今、内子町の子どもたちに伝えたいことがあります。それは「海外が怖いとか、外国語が難しいとか考えないで」ということです。偏見を持たずに、いろんな情報や知識をたくさん浴びてほしいと思います。視野が広くなれば将来がもっと楽しくなるし、いろんな国の文化にも興味が出てきます。世界には楽しいことや不思議なことがあふれているから、どんどん勉強して楽しんでください。そして内子町の子どもたちが世界で活躍できるようになることを願っています。

内子町の皆さん13年間、本当にありがとうございました。体はドイツに行っても、心の半分は内子町に残していきます。いつか必ずどこかで、笑顔で再会しましょう。

国際交流員から内子町絆大使に——

いつまでも内子町とつながっているようにと、小野植正久町長から「内子町絆大使」に任命されたドレーンさん。フェアウェルパーティでは、たくさんの人々の涙と笑顔、感謝の気持ちが広がっていました。ドイツで新しい暮らしを始めたドレーンさんのメッセージと合わせて紹介します。

ドレーンさんは平成21年(09年)8月にCIRとして内子町に着任。それから13年の長きにわたり、ドイツ語、英語、日本語の卓越した語学力で通訳業務や翻訳業務を行ったほか、環境活動や国際交流活動に力を注ぎました。日本や内子町の伝統文化や伝統芸能にも見識が深く、外国人向けのガイドブックを監修するなど内子町の観光行政にも重要な役割を果たしていました。ローテンブルク市との交流にも情熱を注ぎ、「互いの笑顔で言葉の壁を越え、心が通じ合う瞬間に感動する」と言っていたドレーンさんは、まさに人々の心と心をつなぐ架け橋のような存在でした。

2月21日、共生館で開かれた「ドレーンさんフェアウェルパーティ」には約150人が参加。たくさんのメッセージや花束が贈られ、彼女の13年間の振り返りスライドショーと一緒に涙しました。式の中で「内子町絆大使」に任命されたドレーンさん。これからも変わらず、私たちと世界をつなぐ架け橋として、豊かで輝かしい人生を送ることを願っています。

